



実施報告書

2024 年度日系社会次世代育成研修 (高校生招へいプログラム)

2025 年 3 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

公益社団法人青年海外協力協会

目次

I	日系社会次世代育成研修（高校生招へいプログラム）概要	1
II	研修員名簿	5
III	プログラム日程	7
IV	プログラム内容	8
V	研修員の感想	22
VI	総評	27
VII	添付資料（募集要項）	29

I 日系社会次世代育成研修（高校生招へいプログラム）概要

1. 研修の目的

中南米の日系社会は世代交代が進み、2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して、日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

本研修では、優秀な日系高校生が本邦での様々な交流を通じ、自らの考えを発信する機会を持つこと、また、本研修で得た知識や成果を基に日系社会をリードする発信力のある人材へと成長するとともに、日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツと日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを強化することをねらいとしています。

2. 研修期間

来日日：2025年1月20日（月） 離日日：2025年2月12日（水）

3. 研修員内訳（名簿は5ページを参照）

研修員

(1) 人数：40名

(2) 出身国：ブラジル 18名、ボリビア 4名、パラグアイ 4名、ペルー 4名、
アルゼンチン 4名、ドミニカ共和国 1名、ウルグアイ 1名、
メキシコ 3名、コロンビア 1名

引率教員 3名

ブラジル パラナ州 マリンガ ピラールドスール日本語学校所属

アルゼンチン ブエノスアイレス市 日亜学院所属

パラグアイ アスンシオン市 セントロ日系パラグアイ所属

4. 各プログラムの目的

カテゴリー	目的	講義等
導入	パワーポイントを使い、自身が暮らす町や日系社会等についてプレゼンテーションを行い、互いの人となりを知る。中南米9カ国の日系コミュニティ事情について知る。	プレゼンテーション (国紹介)
	JICA横浜周辺にある海外移住に関する記念碑等を見学し、移住学習への関心を高める。	馬車道地区散策
移住学習	日系人であることのメリット、デメリットを考え、その上で日系人の持つ可能性を考える。	日系人のポテンシャル
	日系人のアイデンティティに関する様々な事例から、自らの日系人としてのアイデンティティについて考え、強化する。	日系人のアイデンティティとその多様性
	時代ごとの海外移住の歴史、背景等を学ぶ。自分の家族の移住の歴史について理解を深める。	日本人の海外移住史 海外移住資料館見学
	アイデンティティの考え方や自分の家族の移住の歴史について理解を深める。	日系人と懸け橋としてのニッケイ
	国や地域の歴史と、自身の家族の歴史を照らし合わせ、家族と自身のルーツを知る。 また、他国や他の研修員の家族に関する移住の歴史を学ぶ。	移住年表をつくろう
	研修の内容をふり返し、学んだこと、感じたことなどをグループで共有する。	研修の振り返り
高校体験入学	日本の高校生と交流を通して、日本の高校生活がどのようなものか理解を深める。	高校体験入学（神奈川県内）
ホームステイ	日本の家庭にホームステイをし、日本文化や習慣を体験する。また、家業体験を通し、ホストファミリーとの絆を深める。	ホームステイ（神奈川県内）
研修旅行	(1) 箱根ジオミュージアムを訪れ、火山とその活用等について学ぶ。 (2) 鎌倉の寺社仏閣を訪れ、日本の歴史、文化を知る。	箱根、鎌倉

カテゴリー	目的	講義等
その他	日本の技術や文化を学ぶ。	施設見学
	日本に移住した方たちの支援活動を通して課題を知る。	日本で活躍されている日系の方から講話、ラテンアメリカ出身のこどもたちへの教育支援活動紹介
	発信力や自己表現力を高める。	プレゼンテーション・スキル講座
	日本へ留学するための情報を得る。奨学金制度を利用して来日している日系留学生と交流する。	日本への留学
	日本文化を学び、日本に対する理解を深める。	日本文化体験講座（書道、茶道）、施設見学（藍染）

5. 各カテゴリーの実施について

(1) 導入

来日前に準備したパワーポイントを使って自国の紹介を行い、これから一緒に研修を受ける研修員同士のこと、近くの国の日系社会のことを理解し合いました。

また、JICA 横浜周辺の馬車道地区にある海外移住に関連した記念碑等を巡る「馬車道地区散策」を実施しました。事前にグループで各スポットについて調べ、移住の歴史に関する理解が深まりました。

(2) 移住学習

移住学習では、日本人の海外移住の歴史を学び、日系人としての可能性やアイデンティティを強化するため「日系人のポテンシャル」「日系人のアイデンティティとその多様性」「日系人と架け橋としてのニッケイ」「日本人の海外移住史」の講義を行いました。講義の中では、グループディスカッションで意見交換や情報共有を行い、理解を深めました。また、来日前に家族から聞いた移住の話や知っている歴史を基に移住年表を作成し、中南米へ移住した日本人の海外移住の歴史や経緯、移住後の生活を見える化し、理解を深めました。

最終発表では、「日系人のアイデンティティ」「日系人のポテンシャル」「日系と懸け橋としてのニッケイ」「日本の文化・習慣」の中から、テーマを一つ選択し、研修中に学んだことや体験したことをについて、グループごとに発表を行いました。

(3) 高校体験入学・ホームステイ、高校生との交流

2025 年 1 月 23 日（木）～1 月 25 日（土） 高校体験入学・ホームステイ

川崎市立橘高等学校、学校法人大谷学園横浜隼人中学・高等学校
学校法人森村学園中等部・高等部

(4) 研修旅行

訪問先、実施内容	
1月31日(金)	箱根（箱根関所跡、芦ノ湖、大涌谷）
2月3日（月）	鎌倉（円覚寺、鶴岡八幡宮、長谷寺、高德院大仏殿）

(5) その他

上記（1）～（4）のカテゴリー以外で本研修の目的達成のために必要なプログラムとして、「プレゼンテーション・スキル講座」「日本への留学」「施設見学」「日本文化体験」を実施しました。

Ⅱ 研修員名簿（国名・学校名）

No.	国名	学校名
1	ブラジル	セバスチャン・フェルナンデス・パウマ高校
2	ブラジル	コレジオ・インテグラル高校
3	ブラジル	コレジオ・オビジェチボ・マルケス高校
4	ブラジル	アングロ・ブラガンサ高校
5	ブラジル	マリンガ・インテラソン高校
6	ブラジル	レオナルド・ダ・ビンチ・アルファ高校
7	ブラジル	アルベルト・アインシュタイン技術高校
8	ブラジル	トメアスニッケイ高校
9	ブラジル	エタッパ高校
10	ブラジル	サーレス・ウルバノ学校
11	ブラジル	アグアス・クララス・オリンポ高校
12	ブラジル	ラ・サーレ・アベール高校
13	ブラジル	州立技術高校
14	ブラジル	サンマルコス高校
15	ブラジル	ノータ10高校
16	ブラジル	トメアスニッケイ高校
17	ブラジル	パラナ軍警察高校
18	ブラジル	COPE 高校
19	アルゼンチン	アルゼンチンカトリカ大学 デザイン専攻
20	アルゼンチン	カルデナル・コペジョ高校
21	アルゼンチン	日亜学院
22	アルゼンチン	サンアーノルド・ヤンセン工科大学 電気専攻
23	パラグアイ	アスンシオン国立工科大学 化学専攻
24	パラグアイ	パトリシオ・エスコバル地域一般教育センター
25	パラグアイ	サン・プラス高校
26	パラグアイ	アスンシオン国立工科大学
27	ペルー	トゥルース・ロートレック専門学校
28	ペルー	ニュートン・カレッジ
29	ペルー	ラ・ウニオン校
30	ペルー	ラ・ウニオン校
31	ボリビア	アドベンティスタ・サンタクルス
32	ボリビア	マリア・ゴレティ高校
33	ボリビア	フアン・パブロ二世高校
34	ボリビア	ドミンゴ・サビオ高校

No.	国名	学校/所属団体名
35	メキシコ	モンテレイ工科大学 ラ・グエラ高校
36	メキシコ	エンセナダ日本人協会
37	メキシコ	日本メキシコ学院
38	ドミニカ共和国	ラ・サジェ・サンティアゴ校
39	コロンビア	サンフランシスコ学校
40	ウルグアイ	アングロ学校
引率教員	ブラジル	パラナ州 マリンガ ピラールドスール日本語学校
引率教員	アルゼンチン	ブエノスアイレス 日亜学院
引率教員	パラグアイ	アスンシオン セントロ日系パラグアイ

Ⅲ プログラム日程

実施日	曜日	09:30	10:00～11:10		11:30 ～ 12:00	12:00 ～ 1:00	1:00 ～ 1:50	1:50 ～ 4:20		4:20 ～ 4:50	場所	
1/20	月	来日日										
1/21	火	朝会	開講式		健康OR※	昼休み	アイス ブレイク	研修 オリエンテーション		夕会	JICA横浜 会議室1	
実施日	曜日	朝会 9:15	9:30 ～ 10:20	10:30 ～ 11:20	11:30 ～ 12:20	12:20 ～ 1:20	1:20 ～ 2:10	2:20 ～ 3:10	3:20 ～ 4:10	4:20 ～ 4:50	場所	
1/22	水	朝会	プレゼンテーション(国紹介) (昼休み 11:40～12:40)					高校体験入学 ホームステイOR※		夕会	JICA横浜 会議室1	
23	木	高校体験入学・ホームステイ									川崎市立橋高等学校	
24	金										森村学園中等部・高等部	
25	土										横浜隼人中学・高等学校	
26	日	休日										
27	月	朝会	日系人のポテンシャル			昼休み	日本文化体験講座(1) 書道			夕会	JICA横浜 会議室1	
28	火	朝会	馬車道地区散策			昼休み	日系人のアイデンティティと その多様性			夕会	万国橋会議センター 403	
29	水	朝会	日本文化体験講座(2) 茶道/JICA横浜見学 (9:30～12:00)			昼休み (12:00～ 1:00)	施設見学(1) 横浜市民防災センター (1:30～3:30)			夕会	JICA横浜 和室他 横浜市	
30	木	朝会	プレゼンテーション・スキル講座			昼休み	活動見学 NPO日本ベルー共生協会 (4:30～7:30)				JICA横浜 会議室1/ 大和市	
31	金	研修旅行(1) 箱根										
2/1	土	休日										
2	日	休日										
3	月	研修旅行(2) 鎌倉										
4	火	朝会	動画制作			昼休み	日本人の海外 移住史 (1:20～2:45)	海外移住資料館見学 (3:00～4:20)		夕会	万国橋会議センター 402	
5	水	朝会	日本への留学			昼休み	日系と懸け橋としてのニッケイ			夕会	万国橋会議センター 403	
6	木	朝会	施設見学(2) 川崎市立日本民家園				移住年表を作ろう (2:00～4:20)			夕会	JICA横浜 会議室1	
7	金	朝会	研修の振り返り		帰国OR	昼休み	報告書・ 最終発表 OR※	最終発表準備		夕会	JICA横浜 会議室1	
8	土	休日										
9	日	朝会	最終発表リハーサル			昼休み	報告書作成			夕会	JICA横浜 会議室1	
実施日	曜日	09:15	9:30 ～ 10:20	10:30 ～ 11:20	11:30 ～ 12:20	12:20 ～ 1:45	2:00 ～ 4:30		4:45～5:30	5:45～ 6:30	場所	
2/10	月	朝会	最終発表練習/報告書修正			昼休み	最終発表		閉講式	交流会	JICA横浜 会議室1/ クレーションルーム	
11	火	休日 帰国準備										
12	水	離日日										

※OR=オリエンテーション

※OR=オリエンテーション

IV プログラム内容

1日目【1月20日（月）】

◆ 来日

9 カ国（ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ボリビア、ドミニカ共和国、ウルグアイ、コロンビア、メキシコ）から研修員 40 名と引率教員 3 名が来日しました。



2日目【1月21日（火）】

◆ 開講式

JICA 横浜の植木雅浩次長による挨拶、スタッフの紹介の後、研修員と引率者が自己紹介をしました。

研修員は、「日本文化について学びたいです。」「他の国の同世代の日系人に会えるのを楽しみにしていました。」「日本に呼んで良かったと思われるように頑張ります。」とそれぞれの抱負を述べていました。



◆ 健康管理オリエンテーション

地球の反対側の中南米は、日本との時差が大きく気候も異なります。研修期間中も元気に過ごせるように、感染症予防の方法や、心や体が不調の時の対処について、話を聞きました。



◆ アイスブレイク

研修員の緊張をほぐすため、自己紹介や簡単なゲームを行いました。実施している中で朗らかな表情が見られるようになり、少しずつ距離を近づけていたようでした。

◆ 研修オリエンテーション

研修中の日程や生活の決まりについて確認しました。また、各グループでの役割を決めました。

3日目【1月22日（水）】

◆ プレゼンテーション（国紹介）

パワーポイントを使って、自国や町の日系社会での活動について、日本語または英語でプレゼンテーションを行いました。このプレゼンテーションにより、近隣国や同じ国の違う地域に住んでいる研修員の日系コミュニティの様子を知ることができました。また、お互いの日本語力、英語力にも刺激を受けていました。



◆ 高校体験入学/ホームステイ オリエンテーション

翌日から始まる高校体験入学/ホームステイについて、日程や準備するものなどについて確認しました。

4～6 日目【1 月 23 日（木）～25 日（土）】

◆ 高校体験入学/ホームステイ

神奈川県内の川崎市立橘高等学校、学校法人大谷学園横浜隼人中学・高等学校、学校法人森村学園中等部・高等部の 3 校にご協力いただき、ホームステイをしながら高校体験入学を行いました。

電車での通学、放課後の部活動体験等、研修員は自分の高校生活との違いを感じていました。硬い表情で出発した研修員たちでしたが、学校や家庭で温かく迎えていただき、リラックスして一緒に過ごす貴重な時間を楽しんだようで、最終日にはクラスメイトやホストファミリーとの別れを惜しみました。その後、週末や余暇に高校生と出かける姿も見られました。



8日目【1月27日（月）】

◆ 講義「日系人のポテンシャル」

日本の現状、ラテンアメリカの現状を学ぶと同時に、その中で自身が持つ秘められた可能性について考える時間になりました。「日系の可能性をどのように活用するかを学び、日本の現状とラテンアメリカの異なる現状を見て比較できるようになった。」など、気づきがあったようです。また、可能性にとどまらずアイデンティティについて考えるきっかけにもなったようでした。



◆ 日本文化体験（1） 書道

日本の伝統文化である書道を体験しました。書道では、筆の使い方から練習を始め、好きな漢字1文字を選んで書きました。経験者にとっても「ただ書くだけではなく、集中して書くことで落ち着いて書けた」など、新鮮な気持ちで楽しんだようでした。練習の成果を色紙に清書して仕上げました。



9日目【1月28日（火）】

◆ 馬車道地区散策

JICA 横浜周辺の「馬車道地区」を散策し、海外移住に関連した記念碑等を巡りました。研修員たちは、戦後の日本国民を救った「ララ物資」の記念碑や、移住者の出発地となった大さん橋を訪れ、各スポットで事前にグループで調べたことを発表しました。「一生懸命みんなで調べた場所に実際行ったのはとても印象的でした。」「記念碑が私たちの国とどのようにつながっているかについて、すべてが非常に興味深いものでした。」などの感想が聞かれました。



◆ 講義「日系人のアイデンティティとその多様性」

世界で活躍する数々の日系人のエピソードからアイデンティティの多様性について学び、グループディスカッションを行いました。研修員たちはアイデンティティの多様な捉え方に気づき、「アイデンティティについて私たちが同じような感情をもっていることがわかって、本当に嬉しかったです。」「日系人とは何かについて、みんなが異なる概念を持っていることが印象的でした。」などと話していました。



10日目【1月29日（水）】

◆ 日本文化体験講座（2）茶道

講師のデモンストレーションの後、お茶とお菓子をいただきました。「とても優雅で上品でした。」
「それぞれのステップに大きな敬意が払われていることや、誰もがとても尊敬され、どんなに小さなことでも感謝されることが印象的だった。」など、慣れない正座に苦戦しながらも楽しみながら学んでいました。



◆ JICA 横浜施設案内

研修の多くを過ごす JICA 横浜内で研修員が利用できる施設を案内しました。ライブラリー、海外移住資料館閲覧室、海外移住資料館には各自興味を持ち、自由時間に各々見学していました。



◆ 施設見学（１）横浜市民防災センター

「風水害体験プログラム」「地震・火災体験プログラム」に参加し、シミュレーションを通して事前に準備できること、災害が起きたらどのように行動するか学びました。また、風水害体験プログラムでは、ハザードマップを見て宿泊先で災害があった場合どうするかなど想像して「災害が起きた場合に自分の身を守る方法を学びました。」「日本の災害の深刻さと危険性を学びました。」「実践的なプログラムで興味深かった。」という声が聞こえる中、「シミュレーション技術に驚きました。」と技術的な面に着目している姿も見受けられました。



11日目【1月30日（木）】

◆ プレゼンテーション・スキル講座

効果的なプレゼンテーションを行うための構成や話し方などについて、講師のお話を聞き、実際にグループでプレゼンテーションを作り発表しました。研修員は、「良いプレゼンテーションを行うためのテクニックは、「単純」なことでも、緊張や間違いへの恐れから見落としがちなヒントなので、

とても興味深かったです。」「ポイントを抑えるだけでこんなに惹きつけられるプレゼンができるんだと思いました。」「グループの発表もとても楽しかった。」と、グループ発表では学んだことを意識して作成し、自信を持って発表する様子が見られました。



◆ 活動見学 継承スペイン語教室 特定非営利活動法人日本ペルー共生協会

日本に住んでいるペルーや他のラテンアメリカ出身者へ継承スペイン語教室を実施している団体の理事長にお話を伺いました。その後、継承スペイン語教室を見学し、生徒さんとゲームをして交流しました。



12日目【1月31日（金）】

◆ 研修旅行 箱根

火山や火山を利用した観光などについて学びました。黒たまごを食べたこと、富士山が見えたことなど、五感で様々な学びや印象を残した旅行になりました。



15日目【2月3日（月）】

◆ 研修旅行 鎌倉

鎌倉では、寺社仏閣を訪ね、日本文化に触れました。寺院建築、日本人と宗教について、自然の景色、日本の歴史など、研修員は各々の着目点と感性で学びました。



16日目【2月4日（火）】

◆ 動画制作

研修で学んだことなどをまとめた動画を作成しました。撮りためた画像を使用した動画は、講義でのグループワークの他、研修会場までの行き帰りなど、いつも行動を共にしたグループで1本、高校体験入学で訪れた高校チームで1本の計2本作りました。

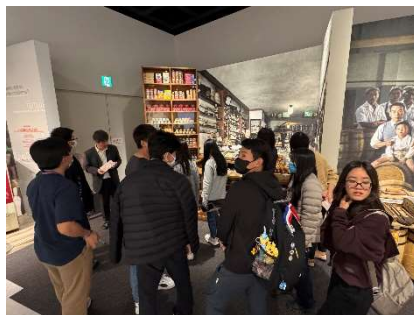
◆ 日本人の海外移住史

戦前戦後の海外移住の歴史、日本で生活しているラテンアメリカ人コミュニティなどについて学びました。また、次に見学する海外移住資料館の概要について説明を聞きました。



◆ 海外移住資料館見学

2つのグループに分かれて、解説を聞きながら海外移住資料館を見学しました。「おじいさんが移住した場所が動画で紹介されていました。当時の様子を知れて嬉しい。」「知らなかった歴史を知ることができた。」などと話し、学びを深めていました。また、「インタビュー動画に祖父が映っています！」との声に、その場の全員が驚きました。



17日目【2月5日（水）】

◆ 日本への留学

「JICA 日系社会リーダー育成事業」と日本財団による「日系スカラーシップ」の制度について、説明を受けた後、この制度で来日中の現役留学生7名と交流しました。本研修の参加経験がある留学生もいて、研修員は先輩方の留學生活についての話を聞くことで大いに刺激を受けました。



◆ 講義「日系と懸け橋としてのニッケイ」

アイデンティティをどう考えるか、研修員は提示された様々な事例から視野を広げました。また、日本人の血筋に限定されず、日本や日本文化を愛し、日系人と共に日系社会の行事等に参加する「ニッケイ」と呼ばれる人々について教わり、現在、そしてこれからの日系コミュニティについて、新しい視点で考える機会となったようです。

研修員は「世界や中南米地域の移住史が、自国の日本人移住史と違いがあることに驚いた。」「nikkeiを定義する多角的な視点に感銘を受けた」と話していました。



18日目【2月6日（木）】

◆ 施設見学「川崎市立日本民家園」

川崎市立日本民家園では、全国から移設された古民家を見学し、伝統的な家屋のつくりや生活様式に触れました。また、隣接している川崎市伝統工芸館で藍染めを体験しました。研修員は、「関東だけでなく、様々な地方・地域の特徴を持つ古民家を見ることができた。」「園内に入ると、タイムスリップしたかのような気持ちになった。」「釘を一切使っていないのに驚いた。」「藍染体験は、ひとりひとり違う独特な模様が出て世界に一つだけのオリジナルができた。」などの感想がありました。



◆ ワークショップ「移住年表づくり」

8つのグループに分かれ「移住年表」を作りました。家族に聞いた移住のエピソードの他、世界の出来事も年表に書き込みました。年表を作りながら、他の国や他の研修員の歴史を学びました。研修員は、移住の時期など中南米9ヶ国にも移住の歴史に相違点があることに驚きながら、「グループの研修員と家族の話をする中で、共通点、相違点を知ることが興味深かった。」「誰もが何らかの形で繋がっていた。」「それぞれ独自の物語があることが印象的だった。」と、理解を深めました。



19日目【2月7日（金）】

◆ 研修の振り返り

これまでの研修を振り返り、講義や訪問先で学んだことや感じたことを整理し、今後どう活かしていくかなどをグループで共有しました。「たくさんのことを学んでいた」と感じたり、他の研修員の意見を聞いて、同じ研修を受けても様々な視点や感じ方があることに気づいたり、改めて気づくことがあったようです。



◆ 帰国オリエンテーション

帰国に向けて、離日日のスケジュール、荷づくりの注意点などを確認しました。

◆ 最終発表準備

研修の振り返りで共有したことなどを用いて、グループで話し合い、最終発表に向けてスライドを作成しました。

21日目【2月9日（日）】

◆ 最終発表リハーサル

翌日の本番に備え、リハーサルを行い、実際に通してみたことで見えた課題に取り組みました。準備した発表資料にかかる時間を把握して、持ち時間に合わせて短くしたり、グループ内でスピーカーの交替をスムーズにしたり、最終調整を行いました。

◆ 報告書作成

これから、本研修で学んだことをどのように活かすかを考え、総合報告書を作成しました。各自「研修の振り返り」で整理したことや写真などを見返しながら、取り組みました。

22日目【2月10日（月）】

◆ 最終発表練習

各グループ、リハーサルを通して調整した資料を使って、本番に向けて練習しました。

◆ 最終発表

「日系人と懸け橋としてのニッケイ」「日系人とアイデンティティ」「日系人のポテンシャル」「日本文化と習慣」の4つのテーマをもとにグループ発表を行いました。研修で学んだことにそれぞれの意見が反映されていました。また、練習の成果もあり、各グループともテンポよく聞きやすい発表に仕上がっていました。



◆ 閉講式

JICA 横浜の大野所長より、修了証の授与を行い、研修員 2 名による代表挨拶をもって締めくくりました。



24 日目【2 月 12 日（水）】

離日

初対面同士だった研修員 40 名は、本研修を経て強い絆で結ばれました。今後も連絡を取り合おうと話し、ともに学んだ仲間との別れを惜しみながら、それぞれ家族の待つ場所へ帰国の途につきました。



V 研修員の感想

1	ブラジル	セバスチャン・フェルナンデス・パウマ高校
この研修では移住だけではなく、日本の文化、習慣、日系のアイデンティティについて学ぶことができました。その他に鎌倉や箱根などの旅行もあってとてもよかったです。		
2	ブラジル	コレジオ・インテグラル高校
この研修は素晴らしい経験であり、日系人として、また人として成長することができました。とても多くのものを見て理解することができました。ここで得たつながりは一生続くでしょう。		
3	ブラジル	コレジオ・オビジェチボ・マルケス高校
この研修は、学校訪問、ワークショップ、研修旅行を通じて、自分の日系人のルーツとつながり、日本の文化、歴史、日常生活を探究することができ、豊かな経験となりました。		
4	ブラジル	アングロ・ブラガンサ高校
私にとって一番大切だったのは日系アイデンティティと移民の歴史を学ぶことでした。これにより、祖父母が過去にしてくれたことをとても感謝しています。これからは自分のコミュニティの活動を手伝い、他の日系人に日本語や日本の文化を学ぶように伝えたいです。		
5	ブラジル	マリंगा・インテラソン高校
この研修は、私の将来に貴重な学びを与えてくれました。研修で得た知識の多くは、すぐに応用できるものではないかもしれないが、時が経てば必ず役に立つと思います。将来、これらの経験を振り返ったとき、この機会に参加したことに満足感を覚えると思います。加えて、さまざまな国から来た新しい人々と出会い、国際的な友情を築くことができたのも、充実した経験でした。		
6	ブラジル	レオナルド・ダ・ビンチ・アルファ高校
この研修で自分のアイデンティティについて深く考え、学ぶことができ、本当に感謝しています。		
7	ブラジル	アルベルト・アインシュタイン技術高校
この研修は、日本人の移住や自分の日系人としてのアイデンティティなど、さまざまなトピックについて考え、私を日系人として成長させてくれました。		
8	ブラジル	トメアスニッケイ高校
このプログラムに参加したことで、ようやく自分が何者であるかを理解することができました。私はいつも日系人であることに迷いを感じていましたが、混血であることに疑問を持つのは普通のことだとわかりました。		
9	ブラジル	エタッパ高校
私にとって、この研修は単なる研修ではなく、一生付き合っていきたい友人を作ることができました。それに、私が日本について学んだことは、インターネットのビデオで見たのとは全く異なっていました。		
10	ブラジル	サーレス・ウルバノ学校

		このプログラムに参加して本当に良かったです。おかげで素晴らしい経験を積むことができ、同時に他の人との新しいつながりも作ることができました。
11	ブラジル	アグアス・クララス・オリンポ高校
		このプログラムは最高だった！新しい友達もたくさんできて、アイデンティティや日系人について学ぶことができたのは本当に良かったです。この期間を通してたくさんのことを学びました。みんなと会えなくなるのが寂しいです。
12	ブラジル	ラ・サール・アベール高校
		このプログラムは、日本移民の歴史を守る若い日系人たちの役割について議論することで、ラテンアメリカの日系文化について理解を深め、自分たちの伝統を誇りに思うようになりました。
13	ブラジル	州立技術高校
		このプログラムでは、学べること、訪問することがたくさんあるので、とても驚きました！自分の街で日本文化を継承していく励みになりました。
14	ブラジル	サンマルコス高校
		この研修は、日本や日系人の文化、アイデンティティ、コミュニティ、歴史といった様々な側面について、私の認識や知識を広げる機会を何度も与えてくれた。
15	ブラジル	ノータ10高校
		研修と、ここで得たすべての経験が本当に楽しかったです。日系人としてのアイデンティティや移住の歴史について理解を深めることができました。この機会に本当に感謝しています
16	ブラジル	トメアスニッケイ高校
		異文化を学び、素晴らしい友人を作り、これからの人生に役立つスキルを身につけることができた。
17	ブラジル	パラナ軍警察高校
		この研修、多くの講座を経て、色々な場所へ向かい、日本文化を体験し、色々な出会いを経験し、沢山の思い出を作りました。少しでも成長できたと思っています。この研修で知り合ってお世話になった全てのスタッフ、先生方、森村学園の生徒達、ホームステイ先の家族、訪れた場所全ての関係者、週末を共にした親戚や知り合い、そして研修員の皆様に感謝を申し上げます。皆様から返せそうにないくらい沢山の物をもらいました。
18	ブラジル	COPE 高校
		この研修は素晴らしい経験でした。なぜなら、多くの友人ができ、先祖の歴史や自分の日系人としての本質を学ぶことができたからです。
19	アルゼンチン	アルゼンチンカトリカ大学 デザイン専攻
		この3週間は、様々な理由から、私の人生の中で断然最高の3週間でした。目的地からすべてのアクティビティ、新しい人々との出会い、自分のルーツである日本について学ぶことなどです。
20	アルゼンチン	カルデナル・コペジョ高校
		この研修は、自分の人生でやりたいことを見つけようとしている私たちと同年代の人たちにとって、完璧な経験です。私は自分の個性の新しい部分を見つけたと思いますし、それは本

		当に衝撃的でした。
21	アルゼンチン	日亜学院
		この経験は、私が日系人であることの理解を深め、自分のアイデンティティを探求し、困難を乗り越えることを可能にしました。様々な国から来た日系人に会うことで、国境を越えた共通の絆が深まりました。
22	アルゼンチン	サンアーノルド・ヤンセン工学校 電気専攻
		最初に、日本を訪れる機会を与えてくれたこと、素晴らしい場所や重要な場所を訪れる機会を与えてくれた JICA に感謝します。JICA スタッフの方々、お世話になりました。
23	パラグアイ	アスンシオン国立工学校 化学専攻
		今回の研修は僕にとって一生忘れることのない素晴らしい経験になりました。たくさん学び、たくさん友達を作り、たくさん楽しみました。ここで感じたことや、学んだことを自分の国で共有できることを楽しみにしています。
24	パラグアイ	パトリシオ・エスコバル地域一般教育センター
		今まで 17 年間生きてきた人生の中で間違いなく一番楽しくて、一番学び、一番短いと感じた時間でした。自分の今までの人生を見つめ直す大切な時間でした、大切な一生の友達も出来ました。
25	パラグアイ	サン・ブラス高校
		僕は多分初めて三週間がこんなにも短く感じたと思います。それほど沢山の楽しみや、新しい経験がありました。いつもは嫌いな勉強も、この研修では楽しく感じました。
26	パラグアイ	アスンシオン国立工学校
		一番印象に残ったのは、奨学金で日本留学している先輩たちとの時間でした。
27	ペルー	トゥルース・ロートレック 専門学校
		JICA は忘れられないものでした。高校とホームステイ先で日本の学生生活を体験しました。日系と私の先祖について学ぶことは、目を見張るようなものでした。海外移住資料館では彼らの苦勞を知ることができました。感謝しています
28	ペルー	ニュートン・カレッジ
		日系人としてのアイデンティティに一層に誇りを感じるようになり、日系人コミュニティの中で結束し続ける意欲が湧いてきました。今、私は日系人としてのアイデンティティと日本文化をよりよく理解しています。
29	ペルー	ラ・ウニオン校
		日本の文化や伝統について新しいことを学ぶことができただけでなく、とても良い友達を作ることでもできた。
30	ペルー	ラ・ウニオン校
		この研修に参加して色んなことを学びました。それが移住の歴史やアイデンティティのことなど、とても面白いと思いました。この研修で出会った人たちは明るくて、すぐに仲良くなりました。僕にとって書道の時間が一番楽しかったです。本当に凄い経験でした。

31	ボリビア	アドベンティスタ・サンタクルス
僕は JICA の人達がこのチャンスを与えて感謝をしています。おかげで色々なことを学びました。		
32	ボリビア	マリア・ゴレティ高校
この研修では、勉強だけではなく、楽しいこともあってとても楽しかったです。忘れられない経験でした。		
33	ボリビア	フアン・パブロ二世高校
母国の移民の歴史を学び、他の日系人とつながることができたこのプログラムに感謝しています。忘れられない思い出になりました。この経験を分かち合い、他の人達にもインスピレーションを与えたいと思います。		
34	ボリビア	ドミンゴ・サビオ高校
僕はこの研修でいろんなことを学びました。日本の文化だけではなくて、僕たちがなんなのか、歴史などを学びました。それから日本の学校です。生徒は一生懸命勉強するし、教師たちも一生懸命生徒に教えていました。研修の中でも一番楽しかったです。僕も将来のために一生懸命勉強したいと思いました。寂しくなるのは日本ではなく、研修員の皆さんです。一緒に過ごした時間は一生忘れません。本当にありがとうございました。		
35	メキシコ	モンテレイ工科大学 ラ・グエラ高校
このトレーニングは人生を変えるものでした。初めのうちは、自分が日系人であることなど気にしていなかったし、気にも留めていませんでしたが、このすべての活動や友人関係を経験した後、本当に日系人である自分を見つけました。		
36	メキシコ	エンセナダ日本人協会
この研修は、講義や訪れた名所、そして次世代の日系人として私たちが築いたネットワークなど全て、非常に充実した経験だったと思います。		
37	メキシコ	日本メキシコ学院
とても素晴らしい経験でした。自分のアイデンティティや、先祖のおかげでできること、そして自分の環境を良い方向に変える方法を探求することができました。		
38	ドミニカ共和国	ラ・サジェ・サントシアゴ校
個人的には、このプログラムは私の人生を変えました。時系列の構成を、教えてもらうことで容易に学ぶことができました。		
39	コロンビア	サンフランシスコ学校
親愛なる JICA と JOCA の皆様、このプログラムは私の人生を完全に変えました。今、私は曾祖父と彼が経験したすべてのことに感謝しています。この機会を与えてくれて本当にありがとうございます。		
40	ウルグアイ	アングロ学校
正直なところ、このトランス状態を表現するには言葉が足りません。しかし、このプログラムは、私の経験だけでなく、学んだすべての知識に対しても、私の心に永遠に残るでしょう。		

【引率者の所感】

次世代育成研修プログラムには、9 か国から 40 名の研修員が集まりました。研修員は、家族のルーツや日系人としてのアイデンティティについて考える貴重な機会を得るとともに、自国のみならず、他の中南米諸国における日本移民の歴史を学ぶことができました。また、日本の伝統文化の体験や、日本の学校に通う経験やホームステイを通じて、日本の学生やその家族と絆を深めることができました。

研修の初めには、各研修員が自国や出身地、家族、日系社会での活動について発表を行いました。地域ごとに違いはありましたが、日本の祭りや運動会、盆踊りといった伝統行事が今もなお受け継がれていることが非常に印象的でした。研修員の日本語や英語のレベルの高さ、そして堂々とした発表態度には感動しました。

移住学習では、研修員は自らの家族の歴史や、日系人としてのアイデンティティおよびポテンシャルについて考え、グループ活動を通じて意見を交換し、学びを深めました。また、JICA 横浜の周辺にある、日本と中南米諸国の友好を記念するモニュメントや、日本から移民船が出航した場所を訪れました。この活動を通じて、「おかげさま」という言葉の意味を学び、自分たちが今ここにいるのは祖先の努力と多くの人々の支えがあったからこそだということを実感しました。この感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと願っています。

研修では、書道や茶道、藍染めなどの日本文化を体験しました。また、横浜市民防災センターを訪れ、台風や地震、火災などの自然災害をシミュレーション体験を通じて学び、防災対策への理解を深めました。さらに、継承スペイン語教室を行っている特定非営利活動法人を訪問し、子どもたちと触れ合う機会もありました。彼らが言語や文化に適応する上での苦労について学ぶ貴重な体験となりました。

日本の学校体験とホームステイでは、学校の先生や生徒、ホストファミリーに温かく迎えられました。この経験を通じて、研修員は自国と日本の違いを比較することができました。特に、日本の学生は静かに勉強すること、学校の清潔さ、そして素晴らしい設備に感銘を受けたようです。学校体験終了後も、研修員が週末に日本の高校生と出かける様子が見られ、築いた絆の強さが伝わってきました。

研修旅行では、鎌倉や箱根を訪れ、美しい景色や寺院の歴史に感動しました。多くの研修員が写真を撮ったり、おみくじを引いたりして楽しんでいました。また、日本の大学で学ぶ中南米出身の学生と交流する機会もあり、日本留学の夢がより現実的なものになったと感じた研修員も多かったようです。

このプログラムを通じて、研修員は日系人の歴史やアイデンティティについて学び、将来の可能性について考える機会を得ました。文化体験、研修旅行、学校訪問、ホームステイのすべてが、忘れられない思い出となることでしょう。最終発表では、多くの研修員が将来日系社会に貢献したいという思いを語り、感動的な場面となりました。日系人の次世代の成長を目の当たりにできたことを、大変嬉しく思います。

この研修で得た友情や経験は、一生の宝物となるでしょう。帰国後も、研修員が学んだことを活かし、日本と中南米の架け橋となってくれることを願っています。

このプログラムのおかげで、研修員は自らの日系としてのアイデンティティを強めることができただけでなく、同世代の日本人高校生と交流する機会を得るとともに、他の中南米の日系人とも友情を築くことができました。つまり、将来のニッケイ・リーダーとして、横のつながりを持つニッケイ・ネットワークを構築し、将来的に中南米の日系社会の発展のためにアイデアを交換できるようになったのです。

40名の研修員を3名の先生とともに引率すると聞いたときは、少し安心した反面、大きな責任も感じました。しかし、JICAやJOCAの皆様、そして引率の先生方の支えもあり、無事に研修を終えることができました。この貴重な経験に、心から感謝しています。本当にありがとうございました！

ブラジル パラナ州 マリンガ ピラールドスール日本語学校所属
アルゼンチン ブエノスアイレス市 日亜学院所属
パラグアイ アスンシオン市 セントロ日系パラグアイ所属

VI 総評

本研修は、①日本人の海外移住の歴史、自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学び、日本に対する理解を深めることで、日系人としてのアイデンティティを考えること、②日本でのさまざまな経験や交流を通じて、自分の考えを発信する機会を持つこと、③本研修で得た知識、研修の成果を基に、これからの日系社会をリードする発信力のある人材を育成することを目的として実施され、9カ国から計40名の研修員および引率教員3名が参加しました。

40名の研修員は同じ「日系人」であっても、生まれ育った国や環境はさまざまです。自国や地域で日本語や日本文化が受け継がれ、自分を「日本人だ」と意識して過ごしてきた研修員もいれば、または日系人が少ない地域に暮らしているため、最近まで日系人であることを意識していなかった研修員もありました。自身のアイデンティティや日系社会への取り組みについてなど、それぞれの課題や目的を持って研修に挑みました。

移住学習では、アイデンティティや日本人移住の歴史に関する講義を受けたり、研修員同士が自国や地域の日系社会を紹介するプレゼンテーションを行ったりした中で、自国や自身の家族だけではなく、

中南米へ渡った日本人の移住について学び合い、理解を深めていました。講義の中でも、研修員同士でディスカッションや発表を行うことで視野が広がり「アイデンティティについて考えたことがなかったけれど、考える機会になった。こんなに多様な考え方があることを知った。」「自信を持って自分のアイデンティティを答えられるようになった。」などと話す姿が見られました。

高校体験入学・ホームステイは、神奈川県内の高校で実施しました。日本人の高校生の生活を体験するため、ホームステイ先から高校生と一緒に通学し、授業や部活動等に参加しました。この期間中、研修員は高校の先生や生徒、ホストファミリーと一生懸命コミュニケーションを図って過ごし、「高校に行ってみたら、想像していたものとは大きく違っていた。体験できてよかった。」「日常生活について多くのことを学んだこの3日間は一生忘れられない。」などの感想がありました。

研修旅行では、日帰りで箱根、鎌倉を訪れました。日本の歴史や建築物、火山、伝統文化、観光、自然、宗教など、様々な視点から日本を感じ、学んでいました。

研修員40人は全期間において、毎朝健康チェックを行い、自己健康管理をしっかりと実施できていました。引率の3名の先生方のご尽力もあり、その結果、インフルエンザ、コロナが流行する中、感染症にかかる研修員はおらず、研修を休むことなく受講できたことはとても大きな成果です。引率者、研修員同士の日々のコミュニケーションが研修に関わるみんなの思い出となり、今後の人生の糧になることを願っています。

研修プログラム終了時に実施したアンケートには、多くの研修員が「帰国後、地域の日系社会や日本語学校において研修で学んだことを共有する。」と記載し、中には「自分の近くには日系コミュニティがない。だからこそ自分が作りたい。」など、力強いコメントがありました。次世代を担う研修員がさらに次の世代へつなげようとする研修員や明確な将来の目標を掲げる研修員も見受けられ、非常に頼もしさを感じます。帰国後、研修員たちが出会った多くの人たちへの感謝の気持ち、先祖や家族への新たな思いを大切にしながら、各国で周囲の人々を巻き込んで、また本研修で出会った仲間と協力しながら日系社会をリードし、貢献していく人材になることと期待しています。

VII 添付資料（募集要項）

2024年度「日系次世代育成研修（高校生招へいプログラム）」 募集要項

1. 研修の目的

中南米の日系社会では世代交代が進み、2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

本研修では、これまで来日機会に恵まれなかった優秀な日系高校生が、本邦での様々な交流を通じ自らの考えを発信する機会を持つこと、また、本研修で得た知識や成果を基に日系社会をリードする発信力のある人材へと育成されるとともに、日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて、自分たちのルーツと日本に対する理解を深める、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを強化することをねらいとしています。

1. 対象国および受入計画数

10ヵ国40名（+引率者3名）※2024年度特別枠9名を含む（次ページのとおり）

対象国	人数	対象国	人数
ブラジル	18名※	メキシコ	2名
アルゼンチン	4名※	ドミニカ共和国	1名
パラグアイ	4名※	コロンビア	1名
ペルー	4名※	ベネズエラ	1名
ボリビア	4名※	ウルグアイ	1名※
合計			40名

※2024 年度特別枠について

特別枠とは 2020 年度～2022 年度新型コロナウイルス感染拡大により、本邦研修が中止となり、多くの子弟の来日の機会が失われたことから、可能な限り多くの子弟の来日を実現できるよう、2020年度～2022年度当時に中学生年齢であった子弟を対象に以下の対象国について通常募集の対象人数に加えて追加募集するものです。

（1）対象国（人数）

ブラジル（4）アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ボリビア、ウルグアイ（各1） 計9名

（2）対象者

以下のすべてに該当する者

- 1) 2024 年度研修参加時点で、17 歳以上、19 歳以下の者
- 2) 本プログラムは高校生を対象としているため、全日程を16歳以上18歳以下の参加者と共に行うこと、高校生の研修内容であること、を応募時に本人が理解し、同意していること。
- 3) 生活面、学習場面で年齢差が生じることを考慮し、発言、行動できること。

※上記項目以外の資格要件は通常募集枠の応募者と同様です。以下3.をご確認ください。

2. 研修概要

(1) 内容

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館等の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員の出身国、移住地の日系移民についての歴史や文化の報告	JICA横浜 史跡、博物館等
日本の高校生との国際交流会	国際交流会	神奈川県内の高校（予定）
研修旅行	日本の文化・社会・科学技術等の理解	未定
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	周辺の会議室

【重要】実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

(2) 研修期間（予定）：24日間

2025年1月20日（月）から2025年2月12日（水）

3. 資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

(1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。

(2) 研修参加時点での年齢が日本の高校生相当（16歳以上、18歳以下）であること。

ただし、2024年度特別枠については上記1.対象国および受入計画数「※2024年度特別枠について」を参照ください。

(3) 本事業対象国の教育機関に所属し、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するに十分な素質があると認められること。

(4) 自分のルーツや日本に対する理解を深める強い意志があること。

(5) 日常会話レベルの日本語力を有すること。また、研修の講義を受講し、かつ議論に参加できるレベルの英語力を有すること。

(6) 心身ともに健康であり、本邦での集団生活に耐えられること。

(7) 来日から帰国までJICA指定の全日程に参加できること。

(8) 親権者または保証人の同意が得られること。

4. 所要経費

規程（技術研修員手当等支給基準（平成16年4月1日細則(国内)第6号）に基づき次の経費をJICAが負担します。

(1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料もJICAが負担します。）

(2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費

(3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費

※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。

※6時間未満の滞在は対象外です。

(4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費（食費）は、規定に応じて来日後に日本円で支給します。

※日をまたがない6時間以上の第三国滞在中の場合、生活費は支給されません。

<支給額>

1) 本邦滞在中 生活費 2,200円/日 ※朝食及び夕食費として

（ただし、現物支給されない日のみ現金支給とする。）

2) 第三国滞在中 生活費 4,000円/日 ※朝食費、昼食費及び夕食費として

(5) 本邦宿泊施設の利用料金

(6) 海外旅行保険料

原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。

〈留意事項〉

各国の国内線利用区間は保険対象外です。

(7) 所外研修、高校での研修、研修旅行のために必要な交通費

(8) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2024年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA 様式を使用してください。

(1) JICA様式

1) 身上書 （様式第1号）

・ パソコン入力可。

・ 氏名（日本語）：

この書類に書かれた氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、査証手続き書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・氏名（アルファベット）：

この書類に書かれた氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無にも注意して記入してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、搭乗できなくなります。

※旅券をこれから申請する方は、必ず旅券申請する氏名表記で記載してください。

旅券と査証、航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。詳細については JICA 事務所からの指示に従ってください。

2) 親権者の誓約・同意書（様式第2号）

- ・サインは必ず親権者に書いてもらってください。

3) 病歴申告書（様式第3号）

- ・パソコン入力可（署名は自筆）
- ・2024年度より応募時は医師による健康診断書の提出は不要です。JICA様式による自己申告です。仮合格者は、病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。
- ・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。
- ・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。
- ・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。
- ・既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。
- ・研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

4) 作文（将来の計画）（様式第4号）

英語又は日本語で書いてください。

- ・パソコン入力可。
- ・日本語の場合は、手書きも可。

(2) 写真2枚（データ可）

最近6ヶ月以内に撮影したもの。（縦4.5cm×横3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名

を記入)

※1枚は身上書に貼付け、もう1枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 旅券の写し

(1) 2) 身上書に記載した通り、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

②旅券を所有していない場合

JICAからの可否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。

※可否に関わらず、旅券取得経費については自己負担です。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

(1) 応募書類の提出締切

在外事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

7. 受入決定

応募書類を基にJICA横浜にて最終選考を行い、仮合格通知を発出します。その後、外務省の短期滞在査証発給審査を経て正式に受入回答を行います。

8. 研修員の資格取り消し

研修員が次の事項に該当する場合、JICAはその資格を取り消すことがありますので、以下については、特に注意してください。

- 1) JICAの規則、指示及び決定に従わなかったとき
- 2) 研修先の規則に違反した場合
- 3) 日本国の法令に違反した場合
- 4) 本人の故意、重大な過失又は怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき
- 5) 本人の都合により研修を中断したとき
- 6) 心身の障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- 7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- 8) その他JICAが止むを得ないと認める事由があるとき

9. 帰国報告会

研修員は帰国後、居住地近隣の日系団体等（日本人・日系人協会、各都道府県人会等）で報告会を行うことが義務付けられています。帰国報告会の実施及びその報告書を在外事務所担当者に提出してください。報告書の様式はJICA事務所から手交されます。

※報告会は、研修員が体験したことについて、日系団体等に共有するとともに本事業の広報の目的と

しても位置づけています。

(1) 提出締切と提出方法

在外事務所のスケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

10. JICA 横浜の施設利用制限

2024 年度は JICA 横浜で施設の改修工事が行われているため、施設利用が制限されており、研修プログラムは周辺施設にて実施されることがあります。

11. その他

新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、研修プログラムの変更、または来日中止となる可能性があります。

【引率者】

1. 引率者の招へい

渡航中・研修中の研修員の生活指導・健康管理その他必要な指導のため、下記のとおり引率者を招へいします。

- 引率者（日本語学校教員）
- 引率者（健康・安全管理員）

(1) 引率者の主な役割

1) 引率者（日本語学校教員）

- ・往路・復路における研修員の引率
- ・研修員の健康等、生活面に係る指導及び対応
- ・研修プログラムへの同行及び実施補助
- ・引率者最終報告会の実施
- ・その他、研修において必要な業務

2) 引率者（健康・安全管理員）

- ・往路・復路における研修員の引率
- ・研修員宿泊フロアの夜間巡回による安全管理・指導
- ・けがや急病などの一次受付、及び二次対応者への連絡
- ・研修員の心身の健康管理
- ・休日の研修員外出時の親族への引き渡し
- ・朝の引継ぎ、夜のミーティング出席
- ・朝、研修員の確認
- ・その他、研修員の健康・安全管理において必要な業務

※研修員の年齢に応じた対応が必要になります。

※ローテーションを組んで夜間に上記役割を遂行していただくことを想定して
いますので、日中は体を休める時間を取っていただきます。
※来日後、引率者へのブリーフィングを実施します。

2. 2024年度引率者選出国

- ・引率者（日本語学校教員）：ブラジルから1名
- ・引率者（健康・安全管理員）：ブラジル、ボリビア、パラグアイ、ペルー、アルゼンチン、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ、ウルグアイから2名

3. 資格要件

(1) 引率者（日本語学校教員）

- 1) 満20歳以上で、日本語学校での勤務歴2年以上であること。
- 2) 日本語学校での教師歴が2年以上あること。
- 3) 研修員と同年代の子弟を対象としたクラスを担当した経験があること。
- 4) 日本語能力は、1世の先生でない場合は日本語での日常会話に問題がなく、かつスペイン語圏の研修員とスペイン語または英語で意思疎通ができること。
- 5) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

(2) 引率者（健康・安全管理員）

- 1) 20歳以上の日系社会の関係者（日本語学校教員、日本人協会会員、JICA帰国研修員等）であること。
- 2) 日常的に日系社会で研修員と同世代の子弟と接している方が望ましい。（参加研修員の保護者は対象外）
- 3) 日本語能力は日常会話程度以上。研修員とスペイン語/英語/ポルトガル語で意思疎通ができること。
- 4) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費をJICAが負担します

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料もJICAが負担。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費
- (3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費
※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。
※6時間未満の滞在は対象外です。
- (4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中の生活費等は、規定に応じて来日時に日本円で支給します。
※日をまたがない6時間以上の第三国滞在は対象外です。

<支給額>

1) 支度料 10,000円

2) 本邦滞在中 生活費： 4,298円/日（食事の現物支給がない日。）

【内訳】 食費1,100円×3食＋雑費998円

※現物支給がある日は、その回数に応じて差し引いて支給されます。

3) 第三国滞在中 生活費: 4,000円/日（朝食費、昼食費及び夕食費として）

※航空会社が手配したホテルに宿泊する場合、食事が提供されることがあります。その際は生活費が支給されないことがあります。

(4) 宿泊施設の利用料金

(5) 海外旅行保険料（往路・研修期間・帰路に係る期間。）

※原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。但し、各国の国内移動区間は対象外です。

本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

(6) 所外研修や研修旅行等に係る横浜での滞在先と訪問先の間の往復旅費

(7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2024年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA様式を使用してください。

(1) JICA様式

1) 身上書（引率者用） （様式第5号）

・パソコン入力可。

・氏名（日本語）：

この書類に記載の氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、短期滞在査証の申請書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

・氏名（アルファベット）：

この書類に記載の氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。

※旅券をこれから申請する方は、必ず旅券申請書に記入する氏名表記で記載してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。

詳細についてはJICA事務所からの指示に従ってください。

2) 小論文（日本語または英語） （様式第6号）

- ・ パソコン入力可
- ・ 日本語の場合は、手書きも可。
- ・ 「日系継承語教育についての考え」について書いてください。

3) 誓約書（引率者用） （様式第7号）

4) 病歴申告書 （様式第3号）

- ・ パソコン入力可（署名は自筆）
- ・ 2024年度より応募時は医師による健康診断書の提出は不要です。JICA 様式による自己申告です。 仮合格者は、病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。
- ・ 提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。
- ・ 既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。
- ・ 現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。
- ・ 研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は保険適用外（全額自己負担）となります。
- ・ 既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

(2) 写真2枚（データ可）

最近6ヶ月以内に撮影したもの。（縦4.5cm×横3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名を記入）

※1枚は身上書に貼付け、もう1枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 旅券の写し

5. (1) 2) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

②旅券を所有していない場合

JICAからの可否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。

※可否に関わらず、旅券取得経費については自己負担です。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

(1) 応募書類の提出締切

在外事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】

1.研修参加にあたって

(1) 新型コロナウイルス感染等の影響により、研修プログラムの変更または来日が中止となる可能性があります。

(2) フライトスケジュールはJICA在外事務所が決定の上、合格者に連絡します。

(3) 滞在延長や帰路変更は、研修員/引率者の自己負担であっても認められません。

研修終了後はJICAが定めるスケジュールで帰国してください。

(4) 原則として、往路・復路とも研修員が集合し、集団で渡航します。

(5) 家族の同伴は認められません。

2.仮合格通知受領後の提出物

(1)肖像権および個人情報使用承諾書

本研修期間中、JICAが契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。研修員用と親権者用があります。

(2) 医師の診断書

・ 応募時に提出された病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。

※応募時点で治療を受けている疾患があれば、応募時に病歴申告書に加え、研修参加に支障がない旨の主治医の診断書を提出してください。

3. 渡航準備

(1) 旅券

旅券を所持していない研修員と引率者は、早急に申請手続きを開始してください。

仮合格の連絡を受けてから旅券取得手続きを開始すると、査証取得が間に合わないおそれがあります。

※日本旅券を申請する場合には、戸籍謄本の取得等に時間を要します。

(2) 査証

・ 日本以外の旅券で渡航する場合

※査証は、日本の外務省で審査が行われた後、居住国の日本領事館に申請し、発給されます。国によっては短期滞在査証が免除される場合がありますので、JICA事務所の指示に従ってください。

※身上書には、渡航時に使用する旅券に記載の国籍を記載してください。

(3) その他必要書類

- ・日本旅券で渡航する研修員・引率者については、居住国における身分証明書等、在住国に居住していることを示す書類等を、念のため持参してください。（原本の持参が難しい場合には写しを持参してください。）
- ・居住国や経由する国によって査証以外の書類（未成年者の渡航に対する親権者の承諾書等）が要求されることがあります。

帰国時、未成年の日本人が片道航空券で居住国に渡航するようにも見えるため、帰路の空港でのチェックイン時に航空会社から当該研修員・引率者が貴国に居住している（永住権・定住権等がある）ことを示す書類の提示を求められる場合があります。

4. 滞在中

2024年度はJICA横浜で施設の改修工事が行われています。

- ・宿泊棟が利用できない場合、周辺の宿泊施設に宿泊します。
- ・セミナールームが利用できない場合、研修プログラムは周辺施設で実施します。

以上

別紙1 研修員 応募書類様式

- ・身上書（様式第1号）
- ・親権者の誓約・同意書（様式第2号）
- ・作文（将来の計画）（様式第4号）

別紙2 引率者 応募書類様式

- ・身上書（様式第5号）
- ・小論文（日系継承語教育についての考え）（様式第6号）
- ・誓約書（様式第7号）

別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式

- ・病歴申告書（様式第3号）